<短 報>

各種霊長類における A 型肝炎ウイルス抗体および B 型肝炎ウイルス関連抗原抗体の保有状況

阿部 賢治* 後藤 俊二 中村 伸**

ヒトウイルス肝炎の誘発モデル動物の開発の一環として、自然界の各種霊長類における A 型肝炎ウイルス抗体 (HAV 抗体) および B 型肝炎ウイルス関連抗原抗体 (HBs 抗原: HBs 抗体: HBc 抗体) の保有状況を検討した。

対象動物および方法: 対象となったのは、京都大学霊長類研究所および三和化学態本霊長類センターにて飼育されている動物である。動物種および症例数は、Table に示した。方法は各動物の血清を用い、ELISA 法にて測定した。

結果: HAV 抗体が多く症例で観察された。つまり 19 種類中 16 種類のサル種で陽性を示した (Table)。

またニホンザル (Japanese monkey) において HAV 抗体の保有率が群別で異なった。更に検索頭数の多いニホンザルの 2 群において、年齢別抗体獲得率を検討した結果、4 歳から 5 歳以降にかけて HAV 抗体陽性率の急激な上昇を示した (Fig.)。この所見はアカゲザル (Rhesus macaque) においても同様であった。次に HBV 関連抗原抗体系としては、HBs 抗体が 5 種類で、HBc 抗体が 3 種類で確認された。尚 HBc 抗体陽性の個体は、HBs 抗体も陽性であった。HBs 抗原は全例で検出されなかった。

考察: 今回の調査から、A 型肝炎ウイルスが野生の霊長類間に広く分布していることが示されると共に、

Table Prevalence of hepatitis A antibody (anti-HAV) and hepatitis B related antigen-antibody in nonhuman primate.

Species	Number tested	anti-HAV	HBsAg	anti-HBs	anti-HBc
Japanese monkey	294	167	0	0	0
Rhesus macaque	123	57	0	0	0
Common chimpanzee	98	85	0	0	0
Hamadryas baboon	6	0	0	1	0
Night monkey	6	5	0	1	0
Stump-tailed macaque	5	4	0	3	3
Vervet monkey	5	1	0	0	0
Doguera baboon	4	0	0	0	0
Pig-tailed macaque	4	4	0	0	0
Brown capuchin	4	1	0	3	3
Spider monkey	4	2	0	1	1
Assanese macaque	3	3	0	0	0
Crab-eating macaque	3	3	0	0	0
Bonnet macaque	2	2	0	0	0
Ring-tailed lemur	2	2	0	0	0
Thick-tailed bush baby	2	2	0	0	0
Patas monkey	2	1	0	0	0
Squirrel monkey	2	1	0	0	0
White-frosted capuchin	1	0	0	0	0

* 国立予防衛生研究所病理部

** 京都大学霊長類研究所

<受付日1989年1月5日>

Fig. Age specific prevalence of anti-HAV in Japanese monkey

その高い抗体陽性率から疫学的にも重要な知見を示唆していると思われた。特にニホンザルにおける高いHAV抗体陽性率とその群別における陽性率の差異については、興味を持たれた。また年齢別抗体獲得率もヒトと同様であった。B型肝炎に関しては、HBc抗体陽性を示したベニガオザル (Stump-tailed macaque), フサオマキザル (Brown capuchin), クモザル (Spider

monkey) がHBVに対する感受性動物候補として注目された。後者に関しては、輸血後非A非B型肝炎の感受性動物候補としても期待される。

本研究は京都大学霊長類研究所「共同利用研究」の研究費によった。

索引用語：霊長類, HAV抗体, HBV関連抗原抗体

Serologic survey of hepatitis A and B in nonhuman primate sera

Kenji ABE*, Shunji GOTOU and Shin NAKAMURA**

* Department of Pathology, National Institute of Health (Tokyo)

** Primate Research Institute Kyoto University (Gifu)